

# 「気仙沼通信 VOL.3」

## ① 焼却炉稼働式

十二月十五日、階上地区の向洋高校跡地にて、焼却炉の安全祈願と稼働式が、階上地区・小泉地区合同で執り行われました。

式典には、宮城県本木環境生活部長様・気仙沼市菅原市長様をはじめとして、県・市・階上地区・小泉地区の関係者の皆様、総勢百四一名のご参列をいただきました。



神事(上段)・稼働式(下段)の様子

気仙沼処理区が、宮城県内最後の焼却炉稼働という事もあり、多くのマスコミ各社が取材にきました。なお、小泉地区焼却炉の完成は、一月末の予定となっております。本格的に焼却炉が稼働するにあたり、今後も環境面・安全面に細心の注意を払いながら、復興の第一歩となるよう、災害廃棄物の処理を進めて参ります。



取材を受ける菅原市長とホヤぼーや

引き続き地域の皆様のご理解ご協力の程、よろしくお願い致します。

## ② 焼却施設の概要

階上地区・小泉地区には焼却方式の異なるストーカ炉とロータリーキルン炉という形式の焼却炉を設置しています。

●施設の規模  
階上地区ではストーカ炉とロータリーキルン炉とも処理能力は二〇〇トン/日、日量四〇〇トンの廃棄物を焼却処理します。十一月中旬まで稼働し、十二万トンの可燃物を焼却する計画です。

●焼却炉の特徴  
ストーカ炉は炭を完全に焼き尽くして灰にする能力が高いため、主に木くずを焼却します。

●周辺環境への配慮  
排ガス対策として、法規制値よりも厳しい自主管理基準値を設けて、リアルタイムに監視を行います。

平成 25 年 1 月 1 日



発行人：大成・間・五洋・東急・西武・安藤・深松・丸か・小野良・阿部伊特定  
業務共同企業体  
担当 木田 伸治  
電話：0226(31)5630



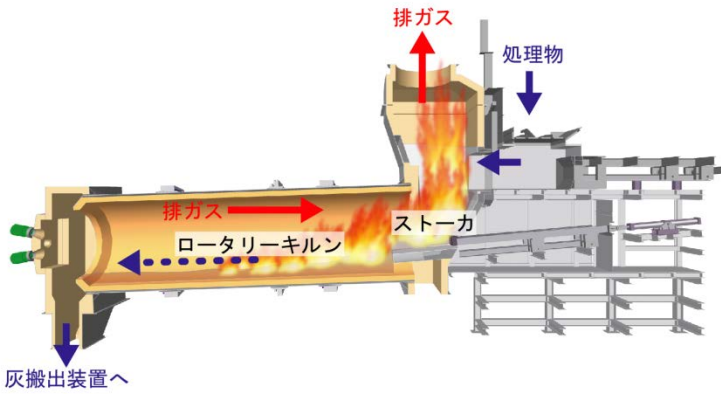
(写真：手前がロータリーキルン炉・奥がストーカ炉)

●ロータリーキルン炉は廃プラや泥状物等の流動性のある廃棄物を安定焼却できるため、混合廃棄物を焼却します。

煙突から排出される排ガスは、ろ過するフィルターを通しクリーンな排気を行います。焼却炉から発生する排水は焼却炉で再利用し、場外へは放流しません。

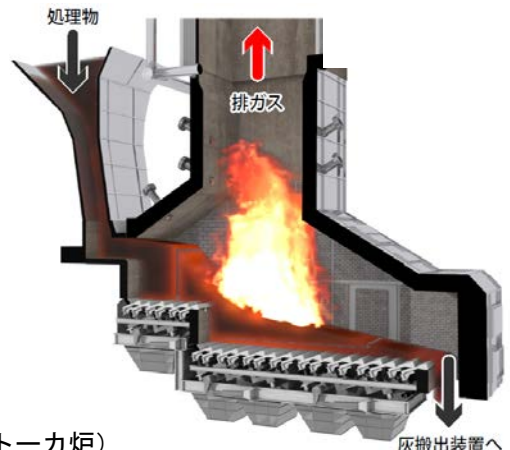
また、施設の稼働音に関しては、環境アセスメントの結果を反映し敷地境界に高さ四〜五メートルの防音壁を設置して、敷地外への音の拡散を防止します。





(ロータリーキルン炉)

回転する円筒形の筒の中でごみを燃焼させます。廃プラ、土砂が付着した廃棄物も安定焼却が可能です。



(ストーカ炉)

火格子と呼ばれる鉄製の床の上でごみを燃焼させます。完全燃焼し、灰中の未燃分が少ないのが特徴です。



徒歩による避難訓練

**③宮城県・気仙沼市合同 津波総合防災訓練**

十一月三日、宮城県と気仙沼市の合同による津波総合防災訓練が行われ、当JVも参加しました。

訓練の内容としては、訓練当日の朝九時、気仙沼市の防災行政無線等による発令の後、階上地区・小泉地区のJV職員と作業員が各地区の指定された避難場所へ徒歩による訓練を行いました。各地区から避難場所までの移動距離は短い所で約一キロ、遠い所で約二キロの移動となり、所要時間は、約十分から長い所では約三十分掛かりました。

※十二月七日の地震発生時には、今回の訓練が活かされ、全員が無事に高台へ避難しました。

(小泉地区)



(階上地区)



**④揭示板の設置**

気仙沼処理区の業務に関する事項や定期モニタリングで測定した結果について、地域の皆様にお知らせするため、階上地区・小泉地区の左記の位置に揭示板を設置しております。また、ホームページにも測定結果を掲載し、公表しております。

● 編集後記 ●

今回編集を担当しました木田と申します。

青森の現場から異動となり、気仙沼でお世話になっております。

気仙沼通信一号・二号を編集した松田と佐々木の上司として、日々厳しくも楽しく仕事をさせて頂いております。

自分でもよくわかりませんが、会う人に安心感を与える体型と笑顔だと言われております。

見かけた際には、是非お声掛け下さい。

これからも気仙沼の美味しい海の幸やホルモンをたくさん食べて、ホヤぼーやのような笑顔になるよう、ますます磨きをかけて参りたいと思います。

雪も降る寒い季節になってまいりました。皆様お体に気をつけてお過ごし下さい。

木田 伸治

災害廃棄物処理業務(気仙沼ブロック (気仙沼処理区))

委託者…気仙沼市  
 受託者…宮城県  
 受託事業者…大成・間・五洋・東急・西武・安藤・深松・丸か・小野良  
 阿部伊特定業務共同企業体